

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291100016		
法人名	株式会社ケアサービス・久		
事業所名	グループホーム夕陽の丘		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町岡郷1669番地1		
自己評価作成日	平成25年10月18日	評価結果市町村受理日	平成26年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成25年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者がゆったりとした時間を過ごせるようサポートしている。食事は手作りにこだわり、一日に20種類程度の食材を取り入れるよう心掛けている。利用者が孤立せず自然とリビングに集うよう毎日の運動や発声練習、またインターネット動画を用いて当時の番組(歌謡ショー)を流したり、DVDなどで懐メロをBGMで流している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大村湾に沈む美しい夕日が望める小高い丘の上に位置し、リビングに居ながら利用者は四季折々の自然を感じることが出来る環境にある。運営者・職員・利用者の思いがこもった言葉を理念として掲げ、その理念を職員一人ひとりが利用者の支援に活かしており、家庭に居るような温かみのある事業所である。特に食事を重視しており、新鮮な20種類の食材を使用することを方針としている。利用者の健康を考えた美味しい食事は利用者の一歩の楽しみとなっている。また、家族との関係が親密で良好であることは事業所の特長である。例えば、家族から知人の介護について相談を受けたり、認知症への理解が不足している家族に寄り添い、理解を促す努力を重ねている。今年度より医療連携が実現し、重度化や看取りの体制が整ったことも、利用者・家族への安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所内にて掲示し、毎日見ること で共有している	理念は職員の介護姿勢を謳っており「利用者中心の介護」「良きパートナー」「ゆっくり、ゆったりと目を見つめて話す」など数項目明示している。出勤時の職員が確認できるよう玄関に掲示して周知したり、新人職員には理念の意味を説明して支援に反映するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事活動を通じ近所付き合いをおこなっている	気候の穏やかな季節には職員と利用者は周辺を散歩しており、近隣住民とあいさつを交わしている。事業所の草むしりを近隣住民が手伝ってくれたり、七夕の短冊を近所に配り、子どもたちが書いた短冊を飾るなど、交流している。朝は登園する保育園児と普段からあいさつしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	誰でも見学できるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行なっている	年6回、規程のメンバーで実施しており、行事や利用者状況報告などを行い、メンバーが意見交換している。災害訓練に地域の協力を得る必要性について、民生委員から消防団の協力についてアドバイスがあり、管理者が検討している。また、地域の情報交換の場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村を含む地域連絡会に参加している	管理者は行政担当課や高齢者介護に関わる事業所で構成する長与町ケア連絡会議に出席している。会議では事業所の空室状況について情報を共有している。加算の申請や不明な点は日頃から尋ねている。行政から研修の情報を得て、受講するなど連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を独自設置し、月1回の会議と合わせ必要に応じ議論している	月1回のケア会議で身体拘束廃止委員会が話す機会がある。玄関は日中施錠せず、利用者が戸外で出た際には職員が遠くから見守っている。また、家族からベッド柵設置の希望が出た場合は、拘束の弊害を説明し理解を得ている。声のトーンにも配慮し、職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関係研修会等に参加し施設内で活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ該当なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には重要事項説明書を用い説明。分かりにくい箇所は実例を用いご理解できるまで説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不定期だが家族会を開催している。ご家族の面会時には近況報告を欠かさず行っている。	家族会を年2回実施しており、代表も加わり湯茶の接待をし親睦を深めている。家族から知人の介護について相談を受けることもある。面会は多く、職員が家族と会話した内容は代表も含めて共有している。事業所は認知症への理解が不足している家族に寄り添い、理解を促す努力を重ねている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場で意見交換を行っている。また、日常の業務内においても意見交換を行っている	日頃から職員と会話する機会を多く作っている。事業所は職員の資格取得を推進しており、取得に応じて手当に反映するなど工夫している。職員から利用者への支援方法で相談があると、随時話し合い検討している。職員の要望を受け、介護用ベッドを導入するなど運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や資格経験を給与に反映させている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修スケジュールはないが、受講機会があれば行っている。また、個々で受講する際も資料提供や相談を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡会等での意見交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に十分な聞き取り調査を行っている。(嗜好、生活歴)これらを基に接しかけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は必ずと言って良い程不安や心配を抱えておられます。全て聞き入れたのちに、解決事例を話し、不安を解消するようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者のご家族の意見に沿ったサービスを提供できるよう、十分な話し合いを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で調理補助や、洗濯物取入れ、整頓等ゆったりとした関係が築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時等で近況報告や意見交換を行い利用者、ご家族の意見を取入れご家族のお力もお借りしながら共に支え合う関係が築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族同意のもと、ドライブついでに実家へ立ち寄りしたりしている。また、友人知人の訪問はお気軽にと家族へも伝えている	家族や孫、知人・友人の訪問は頻繁にある。孫の結婚式前の写真撮影に家族と一緒に掛かけたり、馴染みの美容室に出掛けている利用者もいる。遠方の家族には電話をかけたたり、手紙を書くなど職員は利用者の馴染みの人や場との関係を継続する支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を見極めたうえで、要望等に沿った席決めなどおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約終了した方の見舞いは欠かさず行っている。身内がない方の入院退去の際は衣類等の差入れ、話し相手等の支援も行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	把握はできているが、全ての利用者本位はできていない。が、十分に意見を出し合い検討し、少しでも近づける努力は行っている	意思表示ができる利用者には日頃から会話し、希望を聞き取っている。利用者の希望に沿ってテーブル席を検討したり、買い物に出掛けている。編み物の毛糸を買う約束は利用者の楽しみとなっている。意思疎通が困難な場合はバイタルチェック時の表情や発した言葉を家族に尋ねるなど意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聴き取り調査等で行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムは把握できている。バイタルサインや顔色、表情での変化にも対応できている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の場で十分な意見を出し合い、利用者、ご家族の意見要望を取入れた介護計画を行っている	月1回のケア会議で、計画作成担当者は全職員に利用者の状況を確認し、3ヶ月ごとに見直している。その際、事前に家族や医師の要望、意見を聞き取り計画に反映している。計画は家族に同意を得て実施している。日々の計画実施は個人別の支援記録に記載し、職員間で共有し次の見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌にて記録。特記事項などはスタッフ間での連絡帳を用いて共有できている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行なっている		

グループホーム夕陽の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	※	本人・家族の希望に沿い、かかりつけ医を決定し受診支援を行っている。受診結果は家族に連絡し、情報を共有している。2週間に1回、歯科医による口腔ケアの指導もある。協力医療連携機関による急変時の対応や定期的な訪問看護師による健康管理など体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	※		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	※		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	※	事業所としての指針が明文化している。今期、在宅緩和ケア専門の医療機関と医療連携の契約を結んだことで、重度化に向けての体制が整っている。家族会で説明しており、重度化した利用者家族とは話し合い、方針を決定している。今後、訪問看護師による職員に対する重度化や看取りの研修等も依頼予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED操作方法や心肺蘇生法、誤嚥時の対処法などを消防署員との訓練の場を設けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災対応訓練を行っている。消防主催の研修会にも参加している	自然災害については避難場所の確認や備蓄品の準備を行っている。火災については職員間で火元などに注意を払い、年2回の避難訓練を行い、内1回は消防署立会いのもと夜間想定で実施している。ただし、地域の協力体制構築や自主訓練の頻度を増やすことは課題である。	地域との協力体制を整え、自主訓練を増やすことで、昼夜を問わず利用者を安全に避難させる方法を身に付け、職員の不安を取り除くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を見極めたうえで、その方その方に合った言葉掛けを行っている	職員は利用者の誇りやプライバシーを尊重した支援や声かけを行っている。利用者によっては名前や呼ぶ事を家族に了解を得ている。職員採用時にはアルバイト職員を含む職員全員に守秘義務の誓約書を取っている。個人情報に関する書類は鍵付きの所定の場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を築くなかで、気軽に悩み相談を打ち明けてくれる関係ができています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った生活が送れるよう努力はしているが、全ての利用者様のペースでということまではできていない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院送迎など行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設にはメニューがなく「明日はなんにする？」等で決めている。バイキング食も年1～2度行っている	利用者の楽しみとなる食事を重視し、1日20品目の食材を使うことを目標に利用者の希望を取り入れたメニューを提供している。利用者の状況に応じて、おかゆやミキサー食も対応している。行事食や自家製のさつま芋を使った手作りおやつや利用者、職員が一緒作る料理が並ぶバイキングなど楽しみながら食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	独自の摂取記録を作成しており、1日の摂取量が把握できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、就寝前、毎食後口腔ケアをおこなっている。歯科医の2週1回の往診時に指導助言を活かしおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表にて種類や回数を記録。排泄パターンを把握する事でオムツ減らしを行っている	事務所は排泄の自立の大切さを重要事項説明書のサービスの概要にも明記して、オムツ外しに向けた支援に努めている。職員は排泄記録表を基にそれぞれのパターンを把握し、定期的にトイレ誘導の声掛けを行っている。現在オムツ利用はなく、布パンツにパッドのみを目指し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜を多く取り入れ定期的な水分補給も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の定めはありますが、これに限らず要望があれば支援。また、入浴剤や薬草風呂のPOP等で入浴を楽しんでもらえる工夫を行っている	入浴は週3回として時間帯も基本的には決めているが、利用者の要望に沿って柔軟に対応している。入浴拒否の利用者には無理強いせず、声をかける職員を替えたり時間を置く等工夫している。入浴を楽しむため「温泉」の看板を掛けたり、職員が見守る中、仲の良い利用者同士と一緒に入浴するなど楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンを把握する事で昼寝の促しや就寝時の癖や動きで抱き枕やクッションを使用している。室温は適度な環境で就寝できるよう心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全て服薬チェック表にて管理している。処方変更の際は申し送りや連絡帳にて共有。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行なっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や促しにてドライブ、散歩を行っている	気温や体調を考慮し、日常的に事業所の庭や畑に外気浴を兼ねて散歩している。外出が苦手な利用者には玄関先に飼っているウサギや亀を見るために誘うこともある。また、希望に沿って食材の買い出しに職員と出掛けている。季節ごとの桜やコスモスの花見、近場へのドライブ等、車椅子の利用者も一緒に外出する支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行なっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行なっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭先や玄関周りは緑を絶やさないようにしている。玄関内には季節の造花などで季節感をだしている。	冬場対策としてリビングには床暖房を整備している。また、空気清浄器や加湿器を設置し、インフルエンザなどの感染症対策に努めている。利用者が作成した絵が飾られ、懐かしい番組が流れるテレビを設置している。気になる音や臭いもなく、利用者は海を見渡せる明るいいリビングで楽しく歌ったり、ソファで寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには皆が自由に座れるソファを用意している。窓辺には一人用の椅子を用意し景色を楽しむことができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、家具は新調せず使い慣れた物を勧めている。また、居室が殺風景にならぬよう飾り付け(写真、等)を行っている	備え付けのベッド以外は利用者の鏡やタンス等、自宅から使い慣れた物が持ち込んでおり、それぞれの好みに合った居室となっている。職員が毎朝、清掃を行っているが、リネン交換等、衛生面での実施状況を確認ができる体制や工夫が十分でない。	居室や備品の清潔を保持し、利用者が居心地よく過ごせる居室であるためには衛生面の確認体制は重要である。職員間で確認しあえる体制や工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には分かりやすい目印を付けている。		